就職に困難を抱えるグレーゾーンの学生を対象とした ICT活用による情報共有支援ツールの開発3 ―ツール入力を促進する要因の検討―

Development of information sharing tools to support transition from university to employment of students with vocational difficulties 3
—Examining factors that promote tool input—

縄岡 好晴[1]，本田 周二[2]，藤本 優[3]，千田 若菜[4]，柴田 珠里[5]，工藤 陽介[6]，窪 貴志[7]
Kosei Nawaoka[1]，Shuji Honda[2] , Fujimoto Yu[3]，Wakana Chida[4] , Juri Shibata[5], Yosuke Kudo[6] , and Takashi Kubo[7]

[1,3]大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科，[2]大妻女子大学人間関係学部人間関係学科，
[4]医療法人社団ながやまメンタルクリニック，[5]就労移行支援事業所ワークアシスト，
[6]明星大学ユニバーサルデザインセンター，[7]株式会社エンカレッジ

キーワード：ICT，発達障害，障害のある大学生，キャリア支援
Key words：ICT, Development disability, University students with disabilities, Career support

１．研究目的

本研究は，平成 31 年度共同研究プロジェクト「就職に困難を抱えるグレーゾーンの学生を対象とした，ICT 活用による情報共有支援ツールの開発」の継続研究である．申請者らは，昨年度，ICT 活用による情報共有支援ツールを実際に使用することで，情報を共有することのメリットについて明らかにしてきた．一方で，本ツールに共有するべき情報を学生自身が入力することは容易ではないことも明らかとなった．具体的には，本ツールに入力するには，自己に対する理解に加えて，仕事や働くことに対する理解，通常雇用と障害者雇用のメリット・デメリットの理解，自分のキャリアをどのように形成していきたいかという将来展望が重要となるが，これらは就職活動を始める段階よりも前の段階（例えば，2，3 年生）から取り組まなければならない．そして，これらの理解には，当人と支援者だけでなく，同年代の他者や企業で働いている人など様々な立場の人たちと議論することが重要である．

特に昨年度は,他大学との意見交換会を 5 回実施し,パイロットスタディとして,キャリア教育プログラムを２回実施した。その結果,プログラムのベースとなるものを作成することができたが,今年度はさらに具体的なプログラムの作成と修正をおこなうこととした。

そこで,本研究では,過去の研究を踏まえ,①発達障害のある学生の自己認識や職業意識はどのようなものであるのか,②発達障害のある学生が同年代の他者や企業で働いている人と議論する場（キャリア教育プログラム）を提供することが,自己理解や仕事や働くことに対する理解を深め,本ツールへの入力が促進されるかどうか,③そのような機会を通して学生,企業双方の相互理解が進み,ミスマッチが減るかどうかについて明らかにすることを目的とした。

２．研究実施内容

本年度は，まず，キャリア教育プログラムの実施に向けて，他大学の様々な部署に所属している障害学生支援の担当者との情報交換会を複数回開催した．その後，キャリア教育プログラムを実施した．

１）情報交換会の開催

今年度は，共生社会文化研究所の「発達障害及びグレーゾーンの学生のためのキャリア教育プログラムの開発と実施プロジェクト」において下記の通り 2 回の情報交換会を開催した．

第 1 回「障害学生に対するキャリア支援のため

の交流会（情報交換会）」2021 年 10 月 14 日（水）10 時～12 時（Zoom によるオンライン）

ここでは，新型コロナウイルス禍におけるキャリア・就職支援について各大学でどのような取り組みが行われているのかについて Zoom のブレイクアウトルームを用いて情報交換を行った．また，学生が抱えている不安などについても共有をおこなった。

第 2 回「第 2 回障害学生に対するキャリア支援のための交流会（情報交換会）」2022 年 1 月 18 日（火）10 時～12 時（Zoom によるオンライン）

ここでは，第 1 回大学間連携キャリア教育プログラムの実施報告を中心におこなった。また,現時点で抱えているキャリア・就職支援の課題について Zoom のブレイクアウトルームを用いて情報交換を行った．

２．キャリア教育プログラムの実施

令和 3 年度はキャリア教育プログラムを 2 回実施した．

第 1 回「大学間連携キャリア教育プログラム～自分のことを知ろう～」2021 年 12 月 21 日（土）10 時～12 時（Zoom によるオンライン）を実施した。本プログラムは，昨年度施行版を作成し,その内容について少しアレンジしたものである。第 1 ワーク：自分の「好き・嫌い」をすること，第 2 ワーク：自分の「得意・苦手」を知ることという 2 つのワークによって自分の特性や身についている力を知ることを目的としたものであった．個人ワークを行ったのち，グループで意見交換をするというアクティブラーニング型のプログラムとなっている．第 1 ワークでは，まず，アイスブレイクとし，好きな食べ物，嫌いな食べ物，そしてその理由は何かについて書いてもらい，意見交換を行った．その後，好きなこと，嫌いなことは何か，そしてその理由は何かについて書いてもらい，意見交換を行った．第 2 ワークでは，これまでの人生の中での成功体験と失敗体験を思い出してもらい，それを自分の得意なこと，苦手なことに置き換えてもらい，意見交換を行った．

第 2 回「大学間連携キャリア教育プログラム～学生と企業の交流会～」2022 年 3 月 7 日（月）13 時～15 時（Zoom によるオンライン）による実施。

本プログラムは，参加頂いた 2 社の企業（SMBC グリーンサービス,MS＆AD）より業務内容やキャリアパス等ついて情報提供をいただいた。その後，学生，支援者および企業担当者が働くことに関して意見交換し，働くことの理解を深めた．テーマとしては，「学生と社会人の違い」「働くことの楽しさ」「働くことの大変さ」「自分の強みや弱みの見つけ方，向き合い方」「社会に出るために今した方がよいこと」「理想の働き方や生き方」を取り上げて意見交換を行った．

３．まとめと今後の課題

本研究では下記の 2 点をリサーチクエスチョンとして取りあげた。

①発達障害のある学生が,情報支援ツールに情報を入力には,低学年からのキャリア教育が有効ではないか？

②発達障害のある学生と企業が議論をする機会（キャリア教育プログラム）を作ることは,学生,企業双方にとってミスマッチを減らす可能性を高めるのではないか？

問２の成果としては，大学間での支援者同士のつながりを作ることができたこと，そして，互いの情報を交換することで知識を増やすことができたことがあげられる．またキャリア教育プログラムの成果としては，参加者のアンケート（満足度）から支援者とともに参加するプログラムにしたことで，学生と支援者、企業担当者とのやり取りが深まったことや意見交換をすることによる理解の深まりを参加者が感じることができた点があげられる．

今後の課題としては，問 1 のキャリア教育プログラムの教育効果を検証することである．今年度はキャリア教育プログラムの教育効果を測定するための尺度表案の作成にとどまった。また,オンライン（ZOOM）による実施であったことから,手続きが不十分であり,実際にその効果を検証することができなかった．特にこれらは，プログラムの告知期間が短かったことが影響していることが考えられる．そのため，次年度には情報交換会とキャリア教育プログラムの実施時期をもう少し早め，支援者に早期の段階でどのようなプログラムであるのかについて説明をしたうえで，学生にすすめてもらえるような形に改善をしたいと考えている。

４．この助成による発表論文等

2022 年度に学会にて発表予定である